



## 長野県No.1のもも・ネクタリン産地を守ろう！

### ◆生育状況と当面する重点作業について

圃場・樹により玉伸びに相当差がある。日照量等の影響から小玉傾向。核割れ果も多く、特に収穫序盤は取り遅れに注意し、果肉硬度や地色で判断し適期管理・収穫を行う。

1. 本格的な収穫時期となる。各品種の適期収穫に努める。  
着色先行の品種は、特に注意したい。着色より熟度優先で収穫し、ロス果を減らす！
2. 高温が続いた場合の急激な乾燥に注意する。  
乾燥し過ぎている場合は、収穫間際でも、軽い散水を行う。  
長期の曇天降雨で根が弱っている所に、高温に当たると樹が衰弱しやすい(特に排水の悪い圃) 5～7日程度たつて降雨がなく弱っている樹には、かん水を行い樹体の保護を行う。  
特に朝になっても葉が萎れていれば要注意。  
盆後以降収穫する品種は、干天が続いたら20～30mm程度のかん水を行なう。
3. 配布されている「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考に葉面散布肥料を有効に活用する。総合的な品質向上対策として、アミノ酸等の友果(500倍)、ケルパック66(500～1,000倍)、オルガミン(1000倍)、モーニングシャイン(1000倍)等を利用する。  
特に曇天降雨が続く、糖度が低い・根が傷んでいる場合は積極的に活用する。
4. 果実が重くなり樹に負担がかかっている。風で枝倒れしないように支柱等を行う。  
枝が折れた所は、きれいに切り取りトップジンMペーストの塗布を行う。日当たりが良すぎると傷口が治りにくいので、ワラ等で覆う。

### ◆川中島白桃・黄金桃・晩生種ネクタリン等の

#### 除袋目安と管理について

生育状況に十分考慮しながら、(高温干ばつで生育は遅れ、曇天多雨で生育は進む)別記の日程を目安に地色の抜け具合を観察し適期に除袋作業を進める。

#### 1. 除袋時の注意

- ①除袋が早すぎると、無袋のようになり、着色が遅れ、遅すぎると着色せず、軟化してしまうので、注意する。  
一般的な桃は、下記の図1を参考にし、白っぽく淡い緑色になる頃。果実全体の地色が抜けた状態では遅い。
- ②大玉から除袋を開始し、小玉や下枝・樹冠内部のものは上枝の除袋4～5日後に2～3回に分けて行う。最低でも上枝と下枝では生育差があるので2回程度に分けて除袋する。
- ③もも二重袋を使用したものは、3日程度早めに外袋のみ除袋する。
- ④除袋時に、曇雨天が続くような場合は、除袋時期の目安より、2日程度早めに始める。
- ⑤老木や樹勢の弱い樹は、数日早く除袋する。樹勢の強い樹は、除袋を遅らせる。

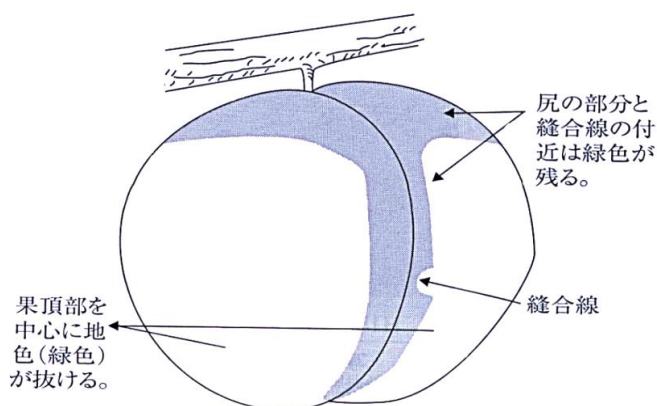


図1 果実の除袋目安

#### 2. 着色管理

##### ①葉つみ

・着色ムラをなくすため果実を覆う葉を摘む。1果当たり5枚程度限度とし、摘み過ぎないように注意す

る。摘み過ぎは、着色・糖度等に悪影響を与える。

- ・高温が続いている場合は、こうあ部(ホヅ付近)の、日焼け防止のため摘みすぎないようにする。(葉を残す。葉を切る。)

## ②反射シート

- ・有袋品種は、除袋直後から使用する。無袋品種は収穫予定日10日前程度から使用する。
- ・着色先行となるので、早採りになりやすいので、熟度をよくみて判断し、収穫する。  
長期に渡り、敷きっぱなしする事は、収穫初期に肌荒れ・日焼けの発生を助長する。

## ③支柱立て、誘引を行い樹内部に日の光が入るようにする。

### 3. 除袋時期の目安 (あくまで目安です。)

品 種	時 期	目安の指標
川中島白桃	8月初旬～上旬	<u>収穫7～10日前頃</u>
秀峰	8月上中旬	

※目安の指標:着色が容易な品種ほど、除袋は遅め。困難な品種ほど早めとなる。

※生育がバラついている。また小玉傾向で地色の抜けが遅い。

※今後の気象条件・自園の状況・地色を確認しながら行う。

昨年は、盆前が天候に恵まれたため、川中島白桃の除袋時期を遅らせた経過がある。

### 4. 川中島白桃・黄金桃・晩生種ネクタリン等の薬剤防除 【もも・ネクタリン共通】

「除袋後」並びに「収穫開始2日前防除」を行う。

#### ①有袋除袋後又は、無袋着色始め～収穫7日前の薬剤散布を必ず行う。

・調 合 量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。 《実際散布日記入 月 日》

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
スクレアフロアブル	3 3 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
アーデントフロアブル	5 0 mℓ	モモハモグリガ・ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

#### ②収穫開始2日前防除の薬剤散布を行う。★降雨が多い場合は、非常に重要な防除。

・調 合 量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。 《実際散布日記入 月 日》

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ア プ ロ ー チ B I	1 0 0 mℓ	機能性展着剤	—
オンリーワンフロアブル	5 0 mℓ	灰星病・ホモプシス腐敗病	前日まで
(デ ィ ア ナ W D G)	2 0 g	ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

### 5. 留意事項

#### ①市場・量販店・お客様宅到着時での腐敗病防止の為、必ず散布して下さい。

灰星病・ホモプシス腐敗病・ミカンキイロアザミウマ・シンクイムシ等の被害果を出したら、築き上げてきた市場や贈答品の信用が著しく落ちしてしまうので、必ず散布する。

②「収穫前日」となっている農薬の使用時期は、収穫する24時間前までに散布が終わる事を意味する。

③果柄部へも丁寧に薬剤散布を行う。

④除袋直後(ほとんど果面に日照を受けない状態)は、薬害(褐色の流れサビ斑・縞状の着色不良)が出やすいので少なくとも1～2日程度は日照をあてて散布する。

⑤ミカンキイロアザミウマ・ハマキムシ類・シンクイムシ類の発生が心配される園は、『収穫開始2日前防除』にディアナWDGを加用散布する。

⑥薬剤が掛かるように、樹・枝に風通しが良いようにしておく。

⑦腐敗果を発見したら被害を拡大させないために、園外に持ち出すか除去し土中に埋める。

## 【もも薬剤防除】 ※もものみ

### ◆白根白桃以降の桃極晩生種の(特)薬剤散布について

1. 散布時期・・・8月2日(水)～6日(日) 《実際散布日記入 月 日》
2. 調 合 量・・・水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
ダコニール1000	100mℓ	灰星病	前日まで
ディアナWDG	20g	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日まで

3. 散 布 量・・・10a当り⇒ 500ℓ 以上

#### 4. 散布上の留意事項

- ① 今回の防除は、極晩生種の定期散布として行い、収穫中のもも・ネクタリンに飛散しないよう十分注意する。
- ② ダコニール1000は、除袋直後に飛散すると薬害を発生する場合がありますので、十分注意する。
- ③ ダコニール1000に代えて、(特)カナメフロアブル4,000倍(水100ℓに25mℓ・収穫前日まで)を使用してもよい。

### ◆収穫中品種の腐敗病防止対策について(もも・ネクタリン共通)

果実腐敗病の被害果は、発見次第胞子が飛ばないように除去する。

被害果が樹上にあると降雨で被害が拡大するので、早急に除去し土中等に埋めて処理をする。

## ◆川中島白桃の収穫講習会について

下記の日程により講習会を開催します。適期収穫・品質目揃いを統一する大切な講習ですので都合のよい会場で受講ください。(マスク持参願います)

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
8月 9日	水	午前 9:00	御厨 斗女神社	佐藤
		午前10:30	松代総合センター	松橋
		午前11:00	今井神社	佐藤
		午後 1:30	真島フルーツセンター※車は東奥へ	根津
			JA川中島支所	佐藤
			若穂営農資材センター	松沢
		午後 3:00	青木島支所	根津
若穂果実流通センター	松沢			
8月10日	木	午前11:00	西部流通センター	寺澤
			東部流通センター(荷受場)	外谷
		午後 2:00	塩崎共選所	寺澤
			東部流通センター(荷受場)	外谷

**なお、講習会以降が収穫始めではありません。**

適熟になったものは、講習会以前でも荷受致します。

また、未熟な場合は適熟になってからご出荷下さい。

### 《栽培に関する問合せ》

寺澤 (篠ノ井西部・信田) : 080-1188-5229 / 外谷 (篠ノ井東部) : 080-8048-6602

松橋 (松代) : 090-4816-6297 / 佐藤 (川中島) : 090-7179-9866

根津 (更北) 080-1203-8576 / 松澤 (若穂) 080-1191-5166

吉澤 (全域・編集担当) : 090-2543-0365 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

### ○果樹のアドバイザー (流通センター長兼務)

※センター繁忙期になるため、電話をとれない場合がありますが、ご了承下さい。

伊藤 (篠ノ井東部) 080-2239-6816 / 松坂 (篠ノ井西部) 080-1188-413

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 営農販売部 (本所) : 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部 / 農業資材課 : 299-3311